

幼年教育科目：幼児と環境

担当教員：隅田学

登録学生数：16名

## 保育者志望学生の虫嫌いを緩和する教育実践

理科教育・隅田学

### 授業の目的

本授業の目的は、幼児は身近な環境や事象にどのようにかかわっていくのか、そのかわりを通してどのように発達していくのか、という点を中心に、具体的な実践事例に基づきながら、領域「環境」のねらい、内容、留意事項等について考えることである。

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- 1) 幼稚園教育要領における「環境」の主な内容並びにその構造を理解している。
- 2) 身近な環境に関わり幼児を育む保育の内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 環境に関わる子どもの学びを促進する教材や各種機器の開発や利活用を理解し、保育を構想することができる。
- 4) 家庭や地域社会との協働による子どもの学び支援、小学校と教科等とのつながりを理解している。
- 5) 国内外の保育実践の実態や研究動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

### 本年度の実施と工夫

幼稚園教育要領「環境」において、身近な環境や事象とのかかわりを考えた際に、幼児にとっても身近な生物としての昆虫がある。地球上の生物種の割合として、昆虫は全生物の60%、全動物種の75%を占める。一方で、保育者志望の大学生は、虫に関する理解が十分ではなく、何よりも虫が苦手な学生が多いのが実情である。そこで、本授業では、①自分が触ることができる虫とできない虫、それらの理由を整理する活動、②虫のスケッチをする活動、③小麦粉粘土で夢の虫を作る活動、④オリジナルの虫物語を作る活動、⑤地域の専門家による虫に関する特別講義、を講義の中にも含めることにより、保育者志望学生の虫に対する嫌悪を緩和することを試みた。

### 実践後の学生の反応

実践後、本授業を通じた自分の変化についてアンケートを行ったところ、回答のあったすべての学生について何かしらの改善が見られ、幼稚園・保育所等で子どもが虫に興味を示し、話しかけてきた場面での保育活動の質的向上が期待できる結果が得られた。自由記述の部分では、以下のような回答が得られた（一部抜粋）。

- ・虫をスケッチした時、アリがふさふさしていることや、足がどこからはえているかを初めて知った。今まで注意して見ていなかったが、注意して見てみると意外と楽しかった。
- ・オリジナルの虫を小麦粉粘土で作ったのが印象に残っています。個人的にはあまりかわいい虫は作れなかったのですが、面白かったです。いろいろな虫について興味を持つことができたので、虫の標本があるような博物館に行ってみたり、また動物園にも行きたいと思いました。
- ・虫にも他の動物と同じように様々な生態があることをあらためて認識して面白いと感じた。また、これまで虫をなんとなく嫌っていたけど、虫にも素敵な魅力があることを知り、もっと虫について知りたいなと思った。
- ・特にオリジナルの虫ものがたりを作ることを通して昆虫についての理解や幼児に伝えたい、考えさせたいことを考え、表現する力が身についた。また、動物園ではある特定の部分に着目することで視点が定まり、より深い観察ができ、新しい発見が多くあった。